

2026.2.5 (木)  
パシフィコ横浜

参加無料

## 第23回 国土セイフティネットシンポジウム

# 連鎖複合災害への備え

2024年に発生した能登半島地震では、地震に伴う液状化、斜面崩壊、津波、火災など、複数の災害が連鎖的・複合的に発生し、地域社会や経済活動に深刻な影響を及ぼしている。こうした「連鎖複合災害」に対して被害を最小化し、迅速な復旧・復興を実現するためには、災害現象の正確な理解と、多様な観測データを統合した新たな防災技術の発展が不可欠である。

本シンポジウムでは、地震被害と地盤構造に関する最新の知見、先端的観測技術として注目される光ファイバセンシングに関する研究紹介、また、文部科学省が2025年度より開始した「南海トラフ地震等巨大地震災害の被害最小化及び迅速な復旧・復興に資する地震防災研究プロジェクト」の概要と目指す方向性についても取り上げる。各分野の専門家による講演と議論を通じて、今後の連鎖複合災害に対する社会のレジリエンス強化に向けた現状と展望を共有する。

日時：2026年2月5日（木）13:30～17:00

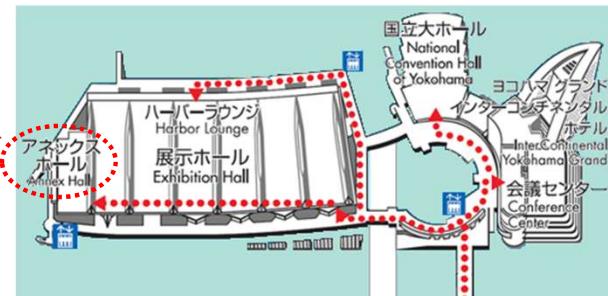
会場：パシフィコ横浜 アネックスホール

〒220-0012 横浜市西区みなとみらい1-1-1

みなとみらい線「みなとみらい駅」徒歩5分

JR京浜東北線など「桜木町駅」徒歩12分

JR東海道線など「横浜駅」タクシー10分



至みなとみらい駅

«セミナーお申込み» 第30回「震災対策技術展 横浜」のホームページより、  
来場およびセミナー参加をお申込みください。

<https://www.shinsaiexpo.com/yokohama/>



### 【プログラム】

#### ■ 13:30～13:35 開会挨拶

国立研究開発法人防災科学技術研究所  
理事長 賀 馨

#### ■ 13:35～13:40 来賓挨拶

文部科学省

#### ■ 13:40～14:20 講演 地震被害と地盤構造の関係－地震被害推定のための地盤構造モデル構築の取り組み－



2024年1月1日に発生した能登半島地震では、建物の損壊や液状化現象など、数多くの被害がもたらされた。被害の特徴として、わずか数十m離れた場所でも、被害の程度が異なる現象が確認されたため、地盤構造や地形の違いによるものと考えられている。本講演では、能登半島地震をはじめとした近年の地震被害と地盤構造・地形との関係、および、より高精度な地震被害推定を可能とする関東地域の地盤構造モデルの構築の取り組みについて報告する。

国立研究開発法人防災科学技術研究所  
巨大地変災害研究領域地震津波複合災害研究部門  
主任専門研究員 先名 重樹

主 催：国立研究開発法人防災科学技術研究所（NIED）

特定非営利活動法人リアルタイム地震・防災情報利用協議会（REIC）

後 援：文部科学省、国立研究開発法人海洋研究開発機構、

特定非営利活動法人光ファイバセンシング振興協会、公益財団法人地震予知総合研究振興会

 防災科研  
NIED

 REIC

■ 14:20~14:40 講演 都市の安全性向上のための光ファイバセンシング技術の開発



都市の災害レジリエンス向上に資するため、光ファイバDASを用いて、都市の地下を含めた3次元空間のモニタリング技術の開発を進めている。DASのアレイ観測に基づいた3次元空間モニタリング技術、大容量データのリアルタイム処理技術や異常現象検出技術などについての研究の現状や今後の展望について紹介する。

国立研究開発法人防災科学技術研究所  
研究主監 藤原 広行

■ 14:40~15:00 講演 既設通信光ファイバを活用したDASの研究開発と地盤モニタリングへの応用



NTTでは全国に敷設済みの膨大な通信用光ファイバをセンサとして活用し、得られる振動情報を基に様々な社会インフラ課題解決に貢献するための研究開発を進めている。本講演では、通信用光ファイバネットワークに配備することを目的とした新型DASおよび通信ネットワーク上での光センシング基盤実現に向けた研究開発動向について述べ、既設通信設備を用いて実証を進める地盤モニタリングの検討について紹介する。

NTT株式会社 アクセスサービスシステム研究所  
特別研究員 高橋 央

■ 15:00~15:10 休憩

■ 15:10~15:40 講演 南海トラフや北海道・三陸沖での巨大地震に備えるための防災研究プロジェクト



2025年8月にスタートした「南海トラフ地震等巨大地震災害の被害最小化及び迅速な復旧・復興に資する地震防災研究プロジェクト」（文部科学省科学技術試験研究委託事業）の概要を紹介する。また、南海トラフや北海道・三陸沖等での地震活動や地殻変動を即時的により精度良く把握したり、ゆっくり滑りの推移評価を行ったりするための手法開発、さらには、次に起こりうる南海トラフ巨大地震発生シナリオ構築への計画について述べる。

国立研究開発法人海洋研究開発機構  
海域地震火山部門・地震津波予測研究開発センター  
センター長 堀 高峰

■ 15:40~16:10 講演 南海トラフ巨大地震を対象とした連鎖複合災害リスク評価に向けて



南海トラフ巨大地震を対象に、都市部、ゼロメートル地帯、軟弱地盤地域、山間地といった特徴的な地域において地震動・津波・土砂崩れ・液状化等の災害が同時または時系列的に発生した場合に、通常であれば個別に対応可能な災害が連鎖・複合的に拡大し社会機能の停止や生活の持続困難を引き起こす現象を「連鎖複合災害」と捉え、その構造の解明と対策の設計に資する連鎖複合災害リスク評価に向け開始した研究開発の概要を紹介する。

国立研究開発法人防災科学技術研究所  
巨大地変災害研究領域地震津波複合災害研究部門  
研究部門長 中村 洋光

■ 16:10~16:40 講演 南海トラフ巨大地震を見据えた地域防災力向上研究



南海トラフ地震の研究が進み、より複雑な地震発生パターンであることも判明しつつある。最大級災害への備えのみならず、連動発生や南海トラフ地震前後で想定される西日本の地殻活動の活発化、頻発している気象災害や土砂災害など、様々な現象のイメージが防災力向上には欠かせない。本講演では、地域特性に応じた被災を再設定した上で、住民を支える組織の事業計画や地域継続計画への貢献を目指し、進めている研究概要を紹介する。

国立研究開発法人防災科学技術研究所  
連携研究フェロー 高橋 成実

■ 16:40~16:45 閉会挨拶

特定非営利活動法人リアルタイム地震・防災情報利用協議会  
会長 早山 徹